

コンセプチュアル・アート

第2週目発表班 プレレジュメ
発表者：林、駒口、笠原、玉城、高橋

【発表のまえに】

今回私たち第2週目発表班は第10章「お前の名前は？ 1980年以降の言葉を使うアーティストたち」を取り扱います。

「言葉」と一言と言ってもその解釈は様々です。ゲイであり黒人であるアメリカのアーティスト、グレン・ライゴンは「他者の言語で表現せざるを得ないのは女性達だけでなく、少数派のアーティストなら誰でも直面している課題だ」と言っています。彼の言う「他者の言語」とはどういった意味なのでしょう。そしてこの章ではそのタイトルが示すとおり「アイデンティティ」という言葉が多用されています。言葉を用いることとアイデンティティにどのような関連性があるのでしょうか。

私たちは今回の発表で、この章で取り上げているアーティスト達が、あえて「言葉」を選んだ理由と他のコンセプチュアル・アートとの差異、そして「言葉」と「アイデンティティ」について言及していきたいと考えています。

【宿題】

みなさんが以下の「言葉」を用いたコンセプチュアル・アート作品を見て、どう感じたかを教えてください。あまりにも漠然とした問いなので戸惑ってしまうかもしれません。したがって1つだけ条件を提示します。「なぜ漠然としていると分かっているながら、あえてこのような問いを投げかけたのか」。それについても考えながら、上記の問いに教えてください。もちろんテキストを読み込んでくることは必須です。

宿題は1つの作品につき100字程度で書いて林 (chocoshake1202@softbank.ne.jp) まで送ってください。期限は4月28日(月)の23時59分までです。よろしくお願いします。

作品①



作品②

